

一般社団法人すまいの未来研究機構

事業概要	「空き家再生を通じた住教育の実践と学生担い手育成事業」 住教育を目的とした空き家まちづくりアカデミーの事業構築研究、学生参加によるイベント開催を通じたアカデミープログラムの試行実践および学生参加による空き家利活用計画と工事の試行実践	
事業者情報		
団体名	一般社団法人すまいの未来研究機構(すまい研)	
所在地	兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬1456-3	
設立時期	平成26年(2014年)5月	
団体HP	https://www.sumaiken.jp/index.html	
活動地域	兵庫県明石市、神戸市、丹波篠山市	
事業スキーム	凡例 ...実施事業者 ...自治体 ...その他連携先 空き家と地域コミュニティ 明石旧船町の家 (高木様所有) 空き家所有者 及び地域住民 明石市 明石市文化 財活用推進 実行委員会 KDUまちづくり研究会 (神戸芸術工科大学) 関西大学 高久ゼミ 大阪公立大学 立見ゼミ すまい研及びチームすまい研メンバー (神戸新聞社、社会人ボランティア他) 連携 協力 アカデミー提供の検討 利活用の実践活動サンプル	
	取組内容及び成果 1. アカデミープログラムを、イベントや活動プログラムの具体的試行を通じて検討する。 ・まちづくりアカデミーin材木町の実施: 継続して学生参加のワークショップを開催し、9月23日～10月1日にかけて中間発表イベントとして、対象空き家における利活用のための検討事項について発表イベントを行った。 ・明石旧船町文化祭の実施: 11月18日～11月26日にかけて、行政や地域の方、大学生間で連携した、空き家利活用のための地域イベントを企画して開催する試行を行い、そのための大学生が行う事項を抽出した。 2. 空き家再生を通じた住教育プログラムの検討・作成する。 ・学生参加による住教育プログラムワークショップの実施 9月、11月に実施するイベントにむけて、学生参加によるワークショップを開催しながら、空き家に関連するイベントを開催するため、また、地域を巻きこんだイベントを行うため、どのようなステップを踏んで、どういったプログラムを体験する必要があるのかの協議を継続することができた。 ・まちづくりアカデミーin丹波篠山にてワークショップを実施 12月3日に、実際に空き家を活用してまちづくりを行った専門家に大学生が話をきくためのツアーを実施し、現地での意見交換を行う手法を体感した。以上を通じて、アカデミーの方向性を取りまとめることができた。その骨子を成果物としてとりまとめし、また、そのアカデミーの意味合いを外部へ伝えるための動画を製作し、次年度以降、より具体的にプログラム内容を確立し、各市町村等に提供するツールをつくることとなった。 3. 対象古民家の改修 対象空き家を利活用するために、まず、イベントを実施したり、ワークショップを行ったりするための、一次活用を行うために必要な工事を、大学生が計画し、一部を大学生が専門家と連携しながら工事をおこなっていくことで、そういったプロセス自体が、地域コミュニティとの連携や大学生が地域に溶け込むために必要な活動であることを体験を通じて理解することができた。	

取組内容及び成果

- 1 アカデミープログラムを、イベントや活動プログラムの具体的試行を通じて検討する。
- 9月にまずは、中間発表として、空き家を一定程度整備し、活用する取り組みを行った。
- 取り組みのために公開し、5日間で、延べ249名の来場を受け入れた。その際に、11月のイベント実施の取り組み告知も行った。



○11月には、地域や行政のイベントなどと連携し明石旧船町文化祭を実施。11月26日には、丸谷明石市長及び辰巳市議会議員も来場。学生による発表セミナーやイベントを実施した5日間で、延べ219名の来場があり、学生がその対応を行う体験をすることができた。



取組内容及び成果

2. 空き家再生を通じた住教育プログラムの検討・作成する。

・9月～2月にかけて、継続的に学生との協議を開催した。大学生とのワークショップにおいても、KDUまちづくり研究会とは、空き家の建築工事や設計プランニングを考えた利活用について、また、関西大学文学部高久ゼミとは、空き家に残された物品や資料をもとに、明石文化博物館と連携した取り組みにおける、文化財活用の視点からみた利活用について、大阪公立大学商学部立見ゼミとは、空き家のある地域の商業的歴史にもとづいたあるべき利活用の考え方についてなど、異なった視点から学生活動を通じて、幅広い住教育プログラムの可能性について検討を継続した。



・12月3日の篠山でのワークショップにおいては、実際に空き家をつかったまちづくりを行った地域と、それに携わった人の話をきくことから、アカデミープログラムとして必要な事項を検証することを行い、学生が考えるこの後の就職などの観点でのプログラムの必要性なども検討した。



取組内容及び成果

3. 対象古民家の改修

当初の、ゴミが山積み、足の踏み場のない、30年間放置されていた空き家を、参加大学生が清掃を継続しながら、イベントやワークショップ、地域との交流利用として、一時的にでも利用するために、できるだけ費用をかけずに、また、無駄になることの無いよう、内装面、電気面、設備面でどういった工事をする必要があるのかを協議し、工事内容を取りまとめた。また、実際に、大学生自らが、床の工事や、トイレの工事を計画実施を行った。その工事を計画するにあたり、空き家の地域を散策し、地域の方を交流を深めながら、貝殻などを収集し、それを利用したデザインを行ったり、自らが工事をおこなったりすることで、地域とコミュニティやその空き家自体への関心を高めることに繋がり、地域の方の参画をまきこんでいけることを体験し、アカデミーに必要なプログラム項目としての有用性を検証することができた。

